第29回 佐賀市子ども・子育て会議 要旨

日 時：令和7年11月25日（火）19：00～20：30
場 所：佐賀市役所大財別館4－1、4－2会議室

1 開会

2 議事

(1)こども計画（素案）について

〇高尾会長

3 章までは前回確認しており、本日は 4 章からの説明を事務局からもらう。委員の意見・質問は、基本目標ごとに説明の後で質問を各自まとめ、メモする時間を2分設けるので、説明がすべて終わった後にまとめて質疑としたい。

●事務局

資料により説明（省略）。

〇委員等

この会議の意見を丁寧に拾ってくれていてありがたいと思う。施策の8について。今日、佐賀市教育ビジョン 2025 の資料配布があり内容は素晴らしいと感じた。いつも持っていた危機感に対し、このビジョンを見て感動した。これを学校の文化に落とし込むのは難しい。総論はみな賛成だろうが、学校では各論で反対が起こる。例えば、ピアス、へそ出しルック、シャープペンシルを学校に持ってくる、宿題をまとめて別の日にやる、などの細かい問題。しかし宗教的理由でピアスをあける子もいるし、塾との関係で宿題をやる日を調整するなど個々に事情がある。それらみなNGだったものを、各々に応じて対応という方向性のこのビジョンは素晴らしく思った。各学校には古い感覚の先生もいらっしゃるし、逆に自らこどもに近づいていく先生もいる。p71にある、自ら考え、行動し、生きる力を身につけるということを地域、保護者と共有することこそ大事なので、どこかに入れてもらえれば。「これが私」と胸をはって生きていける、しかし命は大事なもの、ということを学ぶ場こそ学校であるべき。この素晴らしいパンフレットが現実の学校でつぶされてしまっては意味がないので、生かしてもらいたい。

〇委員等

基本目標1や基本目標5の地域との連携など、学校で教師が行っていくことが含まれていると思う。佐賀市でこうして決めたことに対して、市の先生方が同じ志を持ち、同じ方向を向いてどのように取り組んでいかれるかが楽しみであり気にもなる。

〇委員等

p71、確かな学力の向上に向けた指導の充実や、教職員の資質向上について。先日教育実習に行った。ちょうど校内研修の期間と重なった先生方も忙しく、こどもたちのために資質を上げるというのはわかるが、その忙しさの感じがこどもに伝わってしまうのでは、と思った。教職員の資質の向上とは具体的にどうされるのか気になった。

〇委員等

障がいのあるこども、福祉の体制の整備などが書かれていた。特別支援学級の実習で、肢体不自由のこども、医療ケア児のことに触れる機会があった。寝たきりではなかったが医療的ケアの必要な子で、泊りでの支援はできないという学校方針により寄宿舎に入れないとの話。保護者は寄宿舎に入って自立できればと希望していたが、医療的ケアが理由で入れないこどもという実例を見聞きした。医療などと連携し、医療的ケアが必要な子も支援を受けられるように佐賀市もなってくれるとよい。

〇会長

では委員の皆さんのご意見を。

〇委員等

こどもたちの自己肯定感、意見発表の場などのことが書かれていてよい。こどもたちのワークショップに参加したが、こどもたちの自己評価が厳しいなと感じた。もっとこうなりたい、こうありたいとの思いから自己評価を下げている、言い換えれば真面目である。その中、自己肯定感を上げることに発表の場などは役立つだろう。こどもの意見表明については、ピアアドボカシーについてももっと書ければと思う。医療的ケア児について、災害時などはどのように扱われるのか。災害時に電源が落ちると機器は5時間で切れるという話もある。包括的性教育について書かれていない。若い世代のプレコンセプションケアにそのあたりは考慮されているか。異性愛ではない人の子育て、里親なども触れられていればより配慮が感じられるのではないか。

〇委員等

切れ目のない支援は自分の仕事にも直結し、重要と感じた。基本目標1、p45、こどもの権利を守る取組には、SNSなどの窓口やIT・AIといった文言が入ってもよいのでは。各所、保護者、地域住民と分けて書かれているが保護者も一地域住民である。そこが縦割りに感じられた。

〇会長

保護者も地域住民でもあり、こどもも地域住民であるといった何かを入れられれば理想的という意見である。

〇委員等

p47、男女が、女性が、というところが気になる，子育ては女性ということでなく、p61の4つめの●のような、こどもたちが健全に育ち、家族が安心して子育てできるよう・・、の家族という言い方がしっくりくる。p61、子育て期というのはどのあたりを想定しているか。

〇会長

p61、2つ目の●、子育て期まで、の子育て期はどういう意味合いかということである。

〇委員等

ひとり親支援について。こどもたちの将来の夢がない、将来を考えられない、行きたい高校に行けない、進学をあきらめざるを得ないという現実があるが、ここの中身を見ていて、正直、変わるのだろうかと思う。奨学金や、ひとり親への貸付でも、上の子が貸付していると下の子が進学のとき貸付できないなど。きょうだいでも上の子は夢をかなえ

られるのに下の子はかなえられないといった現状は変わらないのではないか。ひとり親は仕事の関係などで、窓口に相談できる時間になかなか行けない。進学時の奨学金などもこどもと一緒に聞きたくても行けない。相談の時間帯などもっと幅広くなればと思う。ひとり親でこういうものが使えるんだよと説明に来てくれる出張窓口など、公民館など活用して。このままではひとり親は大変で、佐賀市から出ていく子もいるだろう。

〇会長

p62のひとり親。単に利用しやすい窓口整備にとどまらず、出かけて行く、アウトリーチなどを入れてもらえればとの提言として捉えたい。

〇委員等

経験・体験の喪失がこどもの育ちに重要な点である。お金があれば経験・体験できるのかが気になる。こどもの権利をどう守るか、の一言につきる計画である。それを目標とし、権利を守るための大人の役割があるだろうという話を以前したが、保護者、家庭の役割、地域の役割がある。p66に母子の健康、とあるが、父親もおり、父子の健康もあるだろう。男性も育児する時代なので、男性を意識した表現もどこかに入ればよい。

〇委員等

今の時代、子育てについて父親という視点ももう少し入れば、とのことである。

〇委員等

p65、基本目標3の施策7、誕生前幼児期では保護者の意見を掲載している。学童期以降ではこどもの意見となっている。乳幼児も当事者という視点が出てくるとよいのだが、乳幼児期では保護者の意見となるのが違和感。こどもというのは0歳からであり、佐賀市は0歳も権利の主体者であると考えるというところが表せればよい。

〇会長

乳児が主張するような権利を代弁するような、学問的に言えるような乳児の主張という観点を入れられればよい、ということかと思う。時間となったので意見・質問は終了とする。

（進行、事務局へ）

●事務局

佐賀市の現状がどうかも含めて再整理する。男性・女性ではなく「家族」の方がよいのではといった表現面など再度確認したい。

本日いただいたご意見をできるだけ反映してパブリックコメントにはかりたいが、この場で掲載・非掲載の回答はできないので、意見反映結果は会長への相談ということで了承いただけるか。

（委員了承）

では、そのようにしてパブリックコメントに向かう。パブリックコメントの意見反映の整理をした後、2 月に最終案の確認をいただきたい。

3 閉会